

稲作だより 第1号

令和3年7月15日発行
福岡市農業指導センター

北部九州の梅雨入りは平年より20日早い5月15日頃、梅雨明けは7月13日となりましたが、降水量は平年に比べ4割程度で、一部地域では灌水量が不足し初期分げつが抑制されている状況があります。今後、晴天が続く予報ですので田面が乾燥し過ぎないように、水管理には特に留意しましょう。今回は、出穂期までの管理についてお知らせします。

1. 気象及び生育概況

- ・気象概況 降水量が非常に少なく、日照は平年を上回りました。
- ・早期水稻 概ね生育順調で間もなく出穂期を迎えます。
- ・普通期水稻 概ね生育順調ですが、一部地域で水不足による分げつ不足が見られます。



	6月1日～7月10日 (観測地点:前原)				
	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)
令和3年	24.4	28.4	21.1	167.0	198.6
平年値	23.6	27.5	20.4	439.0	168.1
平年差	+0.8	+0.9	+0.7	▲272.0	+30.5

2. 出穂期予測と穂肥時期

出穂期とは、圃場全体の4～5割の穂が出た日です。今年の出穂期は平年並みの予測です。穂肥は出穂期の概ね20日前に行いましょう。

1) 元肥一発型肥料の場合

基本的に穂肥は不要です。葉色が薄い場合は、グリーンセンターにご相談下さい。

- LP複合444 初期生育～穂肥時期にかけて、肥効がなだらかに続きます。
- Mコート48 穂肥時期に肥効の50%が溶け出します。

2) 慣行肥料の場合 (赤とんぼの里など)

下表を目安して、出穂期予測と稲の姿から穂肥時期を判断しましょう。

- 葉色は畔草と同じ位の色の濃さが基準です。
- 穂長2mm位の頃が化成肥料の施用時期です。
- いもち病の発生、徒長、曇天が続く、葉色が濃い(葉色板4.0以上)等の場合は、施用時期を遅らせるなど対応が必要です。

【下表】

		夢つくし	元気つくし	ヒノヒカリ	実りつくし	ヒヨクモチ	夢あおば	ツクシホマレ
田植え日		6/1	6/10	6/10	6/20	6/20	6/20	6/20
		6/10	6/20	6/20				
出穂期予測		8/4頃	8/15頃	8/25頃	9/1頃	9/4頃	8/15頃	9/3頃
		8/9頃	8/20頃	8/27頃				
穂肥時期	NK2号 赤とんぼの里	7/15頃	7/26頃	8/5頃	8/12頃	8/15頃	7/26頃	8/14頃
		7/20頃	7/31頃	8/7頃				8/24頃
	有機質肥料 (油かす等)	7/8頃	7/19頃	7/29頃	8/4頃	8/8頃	7/19頃	8/7頃
		7/13頃	7/24頃	7/31頃				8/17頃

3. 水管理

1) 中干しについて

中干しの目的は、過剰分げつを抑え、土壤に酸素を送り根を健全化することです。

また、土が締まることで倒伏に強くなることや病害虫を抑制する効果が期待出来ます。

- 中干し開始時期は、株の茎数が坪 50 株植えて 22 本程度、坪 60 株植えて 18 本程度に分げつした頃からです。 少ない場合は、茎数を確保してから開始して下さい。
- 中干しは、田面に足跡がつく程度に行います。乾き過ぎは、根を傷め生育を阻害します。畔際と圃場の中とでは、乾き具合が違いますので注意して下さい。
- 中干し後の最初の水入れは、走り水程度とし土壤と水を馴染ませ、以降は間断かん水を行いましょう。
- 水不足等で中干しが出来なかった圃場は、落水期間を長くした間断かん水を行いましょう。

2) 出穂前後の水管理

出穂前後は、最も水が必要な時期です。出穂前後 1 週間は浅水管理を徹底しましょう。

3) 台風対策

脱水・倒伏を防ぐため可能な限り深水管理を行い、台風後は水を入れ替え、間断かん水を行いましょう。

【溝切について】

溝切は中干し・間断かん水の効果を高める生産技術です。

乗用溝切り機（田面ライダーE）の貸出しを行っています。ご利用希望の方は、最寄のグリーンセンターにお問合せ下さい。

● 料金 1,100 円（税込） / 1 日

● 貸出・返却場所 西グリーンセンター

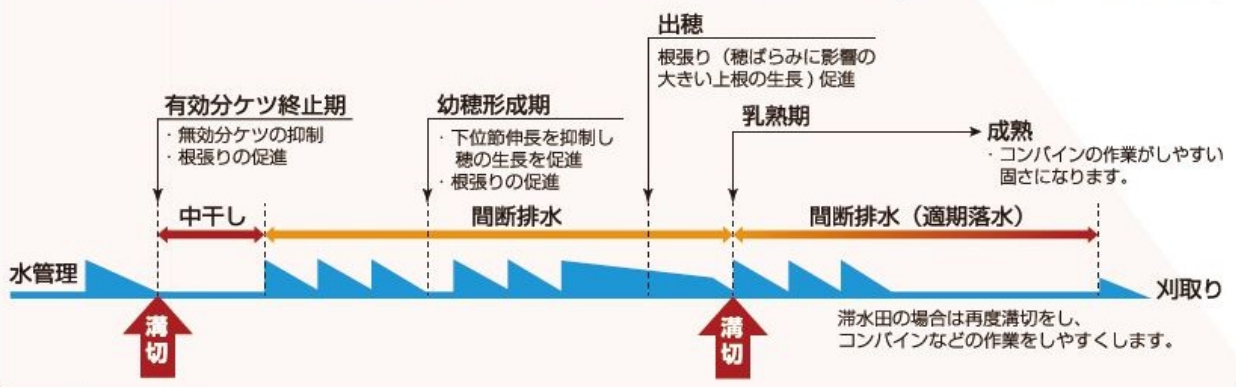


コンバインの作業性も向上します！



基本的な作業方法

1. 必要茎数を確保した時（有効分ケツ終止期）にすみやかにを行います。
2. 溝切予定日の 1～2 日前に落水し、表土を少し固め、溝切（作溝）して中干しをします。
3. 約 2.5m 間隔で 10a 当り 6～8 本作溝し、畦ざわや枕地の溝と連結し排水口に導きます。（水田の排水状態により加減します。）



4. 病害虫の発生状況と対策

1) ウンカ

現在の発生量は、トビイロウンカは「平年並み」、セジロウンカは「平年よりやや少い」となっていますが、昨年同様、今後の天候次第で急増する可能性もあります。**注意深く観察して、今後の発生情報を確認して下さい。**

昨年7月上旬のトビイロウンカの発生は平年並みでしたが、収穫期直前に大発生し大きな被害をもたらしました。今年も注意が必要です！



【トビイロウンカ】



【コブノメイガ】



2) コブノメイガ

食害は見受けられますが、収量への影響は殆どないことから、防除は不要です。

3) いもち病

現在の発生状況は「平年並み」なっています。

- 穂肥時期に発生を確認した場合、穂肥を中止するか、施肥量を減らして下さい。
- 上位葉に発生がある場合は「穂いもち」に進行する恐れがあります。防除が必要な場合は、出穂直前（ジャンボ剤は5日前まで）に行いましょう。

【葉いもち病】



4) 稲こうじ病

幼穂形成期から穂ばらみ期に雨が多く、気温が低い場合に発生しやすくなります。例年発生がある圃場は要注意です。

- 葉色が濃い場合は、穂肥の施肥量を減らして下さい。
- 症状が現れて防除しても効果がありません。適期に予防を行って下さい。

(玄米に稲こうじ病の混入がある場合は「規格外」となります)

【稲こうじ病】



5) 斑点米カメムシ

出穂10日までは、こまめな草刈を行いましょう。刈取った草が水路に落ちないように注意して下さい。

稲の生育・病害虫発生状況は圃場毎に異なります。十分に観察を行い状態を把握しましょう。また、畔草は草丈がヒザより伸びないように管理して下さい。今後の管理については、引き続き「稲作だより2号」「携帯版稲作情報」でお知らせ致します。